

「プライマリーケア領域から始まる、新たな COPD 治療

～漢方薬による治療アプローチの展望と期待～」

東濃中央クリニック理事長

大林 浩幸 先生

慢性閉塞性肺疾患（COPD）は、タバコ煙を主とする有害物質を長期間吸入曝露することで生ずる不可逆的な気流閉塞を呈する肺疾患である。徐々に進行する労作時の呼吸困難や慢性の咳・痰などの呼吸器症状により、身体活動性や QOL が低下する進行性の疾患である。さらに COPD 患者の中心層は中高齢者で、加齢と共に発症する様々な併存症も看過できず、これらが患者の予後に大きく影響する。そのひとつにフレイル・サルコペニアがあり、呼吸機能低下と共に更なる身体活動性や QOL の悪化を生じ、予後不良に結びつく負のスパイラルを形成する。オランダの研究では高齢 COPD 患者のフレイル有病率は 10.2%（非 COPD 3.4%）となり、COPD 重症度と関連し死亡リスクが増大する。南イタリアの観察研究では COPD 患者の死亡率はフレイル進行に従い 54% から 97% に上昇した。また、本邦の多施設研究では COPD 患者のサルコペニア有病率は約 30% であった。

COPD に併存するフレイル・サルコペニアへの治療介入は、臨床的に重要な課題であるが、現時点では呼吸リハビリテーション（呼吸リハ）以外に確立された治療法はない。しかし、プライマリーケア領域で十分な呼吸リハが実施できる施設が少ない実状もある。また、フレイル状態の COPD 患者では急性増悪等が原因し呼吸リハを継続できない場合も多い。このような状況下、COPD 患者のフレイル・サルコペニアに対する治療介入として、呼吸リハ不足を補う新たな薬物治療法が望まれてきた。

人参養栄湯は、古来より疲労倦怠や食欲不振などに用いられてきた漢方薬である。高齢者の人参養栄湯使用実態調査では、要介護リスクの割合を減少させた。フレイル・プレフレイル病態の COPD 患者を対象とした非盲検無作為化研究では、人参養栄湯投与群は非投与対照群と比較し、食欲および抑うつ症状にて有意な改善が報告されている。本講演では、プライマリーケア領域からまず始める新しい COPD 治療法として、併存するフレイル・サルコペニアに対する治療アプローチとしての人参養栄湯の有用性と、その展望と期待を講演する。